

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年6月30日
【会社名】	株式会社ベリテ
【英訳名】	Vérité Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長CEO ジャベリ・アルバン・キルティクマール
【最高財務責任者の役職氏名】	執行役員CFO兼管理本部長 米畑 博文
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町三丁目33番8号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長CEOジャベリ・アルバン・キルティクマールおよび執行役員CFO兼管理本部長 米畑博文は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成27年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、連結子会社等が存在しないため、当社を評価対象の事業拠点といたしました。事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金、預け金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたします。

## 4【付記事項】

該当事項はありません。

## 5【特記事項】

平成27年5月1日に東京証券取引所において「債権の回収不能のおそれ、貸倒引当金の計上及び特別損失の発生に関するお知らせ」として公表しましたとおり、当社は、当社の関連当事者であるジュエルソース・ジャパン株式会社に対して有する債権について回収可能性がないと判断し、当該債権の全額に対して貸倒引当金を計上しております。当該関連当事者に対する債権は、平成27年1月頃より回収が停滞しており、当該関連当事者の最近の財政状態を確認はできていないものの、結果的に債権全額に対して貸倒引当金を設定することになりました。

当社は、このような多額の損失が発生した事態について真摯に受け止め、再発防止に取り組む所存であります。上記関連当事者との売上及び仕入取引については平成27年4月をもって解消しておりますが、今後、関連当事者との関係及び関連当事者との取引に係る内部統制について更なる強化を行ってまいります。

なお、上記事象に係る会計処理及び表示については全て適切に実施しており、財務諸表等に反映しています。